

総務部長	五十嵐 久英君	市民部長	渡辺 成剛君
産業部長	見辺 太君	総務課長	渡辺 忍君
企画定住課長	渡辺 孝志君	市民課長	川合 三喜八君
環境生活課長	高野 一夫君	福祉事務所長	嶋田 猛君
健康増進課長	池田 隆君	商工観光課長	大嶋 利幸君
建設課長	五十嵐 博文君	復興推進課長	斉藤 喜代志君
消防長	小林 正広君	教育長	井川 賢一君
教育次長	磯野 茂君	教育委員会こども課長	磯野 豊君
教育委員会こども教育課長	富永 浩文君	教育委員会生涯学習課長	
		中央公民館長兼務	穂 苺 真君
		市民図書館長兼務	
教育委員会文化振興課長 市民会館長兼務	伊藤 章一郎君		

〈事務局出席職員〉

局	長	松木 靖君	次	長	松村 伸一君
係	長	上野 一樹君			

〈午前10時00分 開議〉

○議長（中村 実君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員は、ありません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

○議長（中村 実君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、6番、滝川正義議員、15番、田中立一議員を指名いたします。

日程第2．一般質問

○議長（中村 実君）

日程第2、一般質問を行います。

発言通告者は12人ですが、議事の都合により、本日5人、15日5人、16日2人を予定しております。

一般質問の質問時間は、答弁を除き、1人30分であります。質問、答弁ともに簡潔に要領よくお願いいたします。

また、質問は通告の範囲内にとどめるようご協力をお願いいたします。

それでは、通告順に発言を許します。

田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。〔9番 田原 実君登壇〕

○9番（田原 実君）

おはようございます。糸魚川21クラブの田原 実です。

通告書に基づき、以下の点を伺います。

質問1、糸魚川のセンスアップ、押上新駅を記憶に残るすてきなデザインの駅に。

えちごトキめき鉄道新駅建設と周辺まちづくりについて。

(1) 駅開業は地元押上区の悲願であり、開業に合わせた地域の暮らしや観光活用について、これまで地区住民が行政とも話し合いを重ね、自らつくったまちづくり構想があります。行政はそれを支援し、実現に向かわせることが役割であり、執行権者としての責任があります。その責任を果たすときが今来ました。ただ、その動きが弱く遅いと私は感じます。いかがですか、市長の見解を伺います。

(2) 駅利用者を増やすには、様々な工夫が必要です。これまで議論されたものもありますが、今が新しいアイデアを計画に盛り込む最後のチャンス、タイミングです。鉄道利用者を増やす策に、昭和の時代の感覚は通用しなくなっており、時代のセンスとのギャップに気づかないでいると、新駅開業というインパクトを生かせないこともあります。今日的なプロモーションと、斬新なデザインがなければ利用者は増えないと思います。そこで。

① 駅施設の一部に、地元住民の皆さんが親しみやすいもの、例えば、けんか祭りの装束姿の等身大イラストを取り込む。また、高校生や若者にすてきと感じてもらえるもの、例えば、アニメ「ラブライブ！」のようなタッチの高校生の等身大イラストを取り込む。これをアニメ情報誌やコミック雑誌に取り上げてもらう。

② ヒスイ海岸へ来る観光客の記憶に残るカッコいい外観、例えば、リゾート列車雪月花に通じるデザインの、インスタ映えする建物とする。これを鉄道情報誌や旅の雑誌に取り上げてもらう。

以上、2項目を私から提案し、実現していただきたく要望します。

記憶に残るカッコいい駅になるか、メディアに取り上げられ市のPRに役立つかは市長のセンス次第です。市の対応について伺います。

質問2、新型コロナウイルス対策、地域医療体制の確保について。

(1) 新型コロナウイルス対策における、糸魚川市、新潟県、市内医療機関の役割と連携について伺います。特に脆弱な糸魚川圏域の地域医療体制が新型コロナウイルス対応で崩壊してし

まわらないよう、糸魚川市が中心となって対策を取るべきと思います。

米田市長の認識と、今これからの早急な対応について伺います。

- (2) 新型コロナウイルス第2波、第3波に備えての感染拡大予防策、検査・検診体制強化策、糸魚川圏域での病床確保策、重症化予防策について伺います。
- (3) 持病を抱え、重症化を心配する市民への対応について伺います。
- (4) 医師、看護師、医療スタッフの感染予防強化と安全確保策について伺います。
- (5) 全国的に医療機関の経営が厳しいとのことですが、国の補正予算の医療整備交付金拡充のタイミングで糸魚川圏域の医療体制向上に取り組まないと、コロナ収束後も医師、看護師不足、診療科縮小がさらに進むことを私は心配します。市の対応について伺います。

3、復興まちづくり計画、糸魚川の文化を感じる雁木の町並みについて。

- (1) 駅北大火から間もなく3年半、復興計画に盛り込まれた工事だけは順調に発注されていますが、本町通りでは常に工事をしているものの人通りは少なく、市が掲げるにぎわいのあるまちの実現が危ぶまれています。そういった中、復興計画にある糸魚川らしい町並み形成のために雁木を造る被災者住民がおられます。雁木はアーケードと違い私有地を提供して造り、造った後も維持費がかかります。それでも皆さんが雁木を造るのはなぜかといえば、雁木をおもてなしの空間と捉え、おもてなしの精神を受け継いでいきたいという思いからだと言っていました。私はこのお話を伺って、雁木は糸魚川市民のシビックプライドの象徴であると気づきました。シビックプライドは、都市に対する市民の誇りを指す地方創生のキーワードですが、郷土愛といった単に地域への愛着を示すものとは違い、権利と義務を持って活動する主体としての市民性を意味します。雁木をおもてなしの空間と捉え再建する市民について、市長の見解を伺います。
- (2) 本町通りの雁木と町屋の町並みは、加賀街道や商店街として栄えてきた歴史の中で醸成された地域資源です。糸魚川の住民にとっては当たり前のものですが、大都市や他の都市との差をつくる糸魚川の個性でもあります。今の本町通りは以前よりも商業集積地としてのニーズは減少しましたが、大火で被災した老舗酒蔵や老舗かっぱうが再建し、にぎわいの拠点が建設され、雁木の町並みが再生されつつあります。本町通りの皆さんが私財を投じて雁木の町並みを造るのは、市が計画に掲げるにぎわいのあるまちになり、エリアとしての価値が再び高まっていくことを理解し、期待したからこそだと私は思います。目標はエリアの復興です。本町通りの復興、本町ルネサンスについて、市長の見解を伺います。
- (3) 仕掛絵本、児童文学、相馬御風などの糸魚川には貴重な素材、文化資源がありながら、子供たちのために役立てられていないのではないのでしょうか。それでは宝の持ち腐れです。雁木を生かし、まちの文化を感じてもらえる取組として、町屋やお店に特色のある本を置いて、まち巡りをしてもらう取組があると聞いています。市の協力支援について、教育長の見解を伺います。

以上、1回目の質問です。よろしく申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

田原議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、新駅開業後の利用促進を図り、地域の活性化につなげていくために、地域のまちづくり活動と連携して事業を進めているところであります。

2点目につきましては、新駅周辺の地域特性及び観光資源と調和させ、歴史などを考慮し、判断してまいります。

2番目の1点目につきましては、保健所、医師会、糸魚川総合病院と連携しながら市内で感染者が発生した場合の対応、感染が蔓延した場合などを想定し、必要な対応を協議しております。

2点目につきましては、感染者発生地域への不要不急の往来自粛や地域外来検査センターの設置、糸魚川圏域での病床の確保、及び重症化予防について関係機関と連携を取り組んでまいります。

3点目につきましては、万が一感染した場合には、十分な設備が整った病院で入院治療ができる体制の確保など、県を中心として対応してまいります。

4点目につきましては、医療機関における感染防止用品の調達において協力しております。

5点目につきましては、医師、看護師不足の解消のほか、基幹病院への財政支援の強化など、今後も地域医療体制の維持・確保に向けた取組を維持してまいります。

3番目の1点目につきましては、本町通りに面して事業されている方やお住まいの方が駅北大火からの復興の中でおもてなしの気持ちや景観への配慮を表していただいたものと考えており、大変感謝いたしております。

2点目につきましては、今年度、策定に取り組んでいるまちづくり戦略により、官民連携で目標を共有し、エリアの復興につなげてまいります。

3点目につきましては、本年度、キターレに仕掛絵本や紅梅文庫の配置を計画いたしております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

押上新駅建設と周辺まちづくりの2回目の質問です。

パネルを使わせていただきます。

これが新駅のイメージ図です。これは市長のセンスでこうなったと考えてよろしいですか。僭越ですが、確認させていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

おはようございます。

お答えさせていただきます。

今のそのパネルは、上り線側に設置を予定しております待合室のご質問ということで、お答えさせていただきます。

待合室に関しましては、かつては漁師の町であったという押上地区の地域性ですとか、文化と調和した和のテイスト、船小屋というものをイメージしたものでございまして、市長のセンスという、指示かということですが、指示というよりは押上地区にできる駅の待合室ということで、市長との会話の中から出てきたイメージでございまして、それを図化して地元にもお示ししているものでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

誠に僭越ですが、このデザインが若い方や観光客に受けるとは思われますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

若い方、高校生とか、あと糸魚川に訪れてきた方に特徴的に映るかという点と、確かにそうではございません。

ただ、駅の待合室というのは、長く使う、ある意味、普遍的な要素というのにも必要なのではないかとはいふには考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

今年の初めに、押上公会堂でえちごトキめき鉄道社長、鳥塚さんのご講演があったので行ってきました。今、地方鉄道は人気がある。観光客がいいねと思う景色で人を引き寄せ、よいコメントのSNSが広がって鉄道利用につながったり、郷土愛につながったり、町を有名にしていくというお話を伺いました。そのとおりで、新駅押上駅もインスタ映えとSNSの拡散を狙って、若い方や観光客がいいねと思うすてきなデザインで、人を引き寄せる戦略が必要だと思います。これから新しく造るわけですから、景色全体を戦略的にデザインすべきです。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

私も鳥塚社長の講演会のほうに参加をさせていただきました。主にいすみ鉄道のお話で、地域の皆様の地道な活動というものと、あと鉄道会社というものがお客様を、それに応える形でお客様を地元へ招くことでよい関係を築いて、結果的に地域が盛り上がるといったような、参考になるようなお話だったと思います。その中でも、特に地元の高校生が自主的に取り組む活動、当番を決めて駅の掃除をしたり、あと列車の中でイベントを行うといった、高校生が自分たちで考えるといった取組がありまして、そこには押上新駅にも通じる新しい知恵と工夫というのが、そういうヒントがあるんじゃないかというふうに思っております。

また、高校生に鉄道というものを通じて、駅、鉄道というものを通じまして、まちづくりのアイデアというものを頂くということも知恵や工夫の一つであると思いますので、デザインの部分に関してもその一つであると考えられます。ご提言、大変ありがとうございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

そうすると、このままだとこれになるということですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

先ほど押上地区の地域性とか歴史とかを考慮して、和のテイスト、船小屋をイメージしたというふうにお答えいたしました。

ただ、それが地域の方にとって船小屋に見えるかどうかということも確かに疑問でございまして、市長のほうからもその辺については、もうちょっと研究必要だよということの、そこは指示を頂いておるところでございまして、デザインがそれで確定しておるということではございません。もうちょっと修正等は加えていく必要は私もあるというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

浜に造る交流施設だったら船小屋いいですよ。だけど、鉄道の横に船小屋、押上の歴史といえどもそうかもしれないけど、もう少し検討されたほうがいいと思いますね。

これはご存じリゾート列車の雪月花です。このデザインがたくさん賞を取り、鉄道や旅の本に掲載され、テレビに出ました。このデザインに通ずるセンスで、押上新駅もデザインされるべきと思います。

これは雪月花の設計者、川西さんの最新作で、上越にあるタクシーの待合所です。今日のために

行ってきました。同じ建物の夜景です。このとおり夜景もすてきです。夜景もインスタ映えする大切な要素です。人を引きつけます。なので、なおさらこのセンスが欲しいと思います。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

川西さんのほうは、糸魚川市のほうもトワイライトエクスプレスの車両の再現ということで、大変お世話になっているところがございます。今の雪月花は、車体自体は朱色といいますか赤い非常にインパクトのある色なんですけど、それが糸魚川の海岸沿いですとか、はねうまラインのほうの水田の中を走ると。その中に違和感なく溶け込んでおるといような、ある意味計算されたデザインなんでないかなというふうに私は感じております。

その雪月花の関係でいいますと、糸魚川駅のところはインパクトという部分では少ないですけど、その地域の固有の景色に溶け込むという意味では、押上にできる駅の考え方もそれに通じるのではないかとこのように考えております。

もう一方、上越妙高駅のほうのタクシー待合所に関しましては、外からの見え方とか中の居心地とか、それでおって大胆な形状といいますか、もうある意味計算され尽くした何か作品のようなもので、ここはちょっとなかなか私どもに建築のレベルでは追いつかないところですが、先ほど申しました押上地域の特性に合わせたようなデザインというものを、私どもも一生懸命考えておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

だから、質問のタイトルが、糸魚川のセンスアップなんです。私らこれくらいしかやれない。だから、押上これでいいですよという話になるじゃないですか。そうじゃないでしょう。新しい駅の新しいデザイン、新しいお客様、そのために今回のチャンスを使いましょうと言ってるのに、今のもので済ませようということですよ、今の答弁は、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

私は、これまで建築というものですとかデザインということ学んだことはない、ちょっと素人に近い考え方はあると思いますけど、建物というのは、やはりその土地の歴史的な背景というものを踏まえているのではないかと思います。本町通りの雁木ですとか、あと例えば浦本地区の木製の

下見板張りの家屋ですとか、筒石のようなあの3階建ての建物というものも、その辺の背景に裏打ちされているものだというふうに思っています。

駅の待合室というものは、当然お客様の利用のしやすさというのは第一なんですけど、先ほども申しましたけど、そこには地域性に沿った普遍性というものも、私はデザインにとっては大事な要因ではないのかなというふうには考えておるところでございます。今風というところに関しましては、考え方としては古いのかもしれませんが、そういう普遍性というところも大切にしなければならぬ要素だというふうには私は考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

私さっき鳥塚社長のお話を紹介しましたよね。そうすると、その話は、何かあまり聞いていただけてない感じですけどね。その話を聞いていただけてない。情報発信の在り方、地方鉄道の在り方、お客さんを増やす仕組み、工夫、必要だよねということをや、歴史的な云々という言葉で変えてるだけです。新しい物を創っていかうという感じが全くしませんよ。それでいいんですかね。

質問を続けます。

私は、雪月花のデザインのセンスを新駅に生かしてほしいと以前より申し上げてきました。それはなぜか、なぜだと思われませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

やはり洗練されたデザインによって、それが情報発信されることによりまして、糸魚川に多くの人が訪れていただけるようになればという議員のほうのお考えがあるものというふうに私は考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

課長そのとおりです。やっとならんと私の質問がかみ合ってきました。

まず、鉄道雑誌に出ますよね。有名な鉄道雑誌では、鉄道ジャーナルが発行部数13万部、旅と鉄道が10万部、JR関係の雑誌と旅と鉄道が12万5,000部です。タブリはあるでしょうが、出版物だけでも多くの鉄道愛好家に情報が行き届きます。このことをどうお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

月に13万部という今このネットの時代でかなりの発行部数だというふうに思っておりますし、鉄道というツールに関しましては、ジオパルの状況を見ておられますも日本中に広がっておるコアなファン、熱いファンがおるといふふうに私は考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

私は、これが悪いと言ってるんじゃないんですよ、これがね、悪いと言ってるんじゃない。だけど、今言ったみたいに鉄道雑誌に取り上げてもらうには、もう少し何か欲しいんじゃないかということをするわけですね。

それで伺いますが、この建物の規模、構造、それから工事費というのは幾らぐらいか。それから、いつから工事に入るか教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

待合室に関しましては、面積で大体16平方メートル程度、その待合室の前面についておる軒の部分に関してが11.5平方メートル程度の面積でございます。それぞれ出入口の幅が1.1メートルで、中にベンチの6脚を設置する予定にしております。まだこれから確認申請を取る段階ではございますが、待合所の建築工事の着手に関しましては、この10月から、10月の恐らく中旬ぐらいにはなるのではないかなというふうに今予定をしておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

であれば、これからデザイン変更しても十分に間に合いますよね。

ちなみに駅北キターレは、設計変更して1カ月ちょっとで確認が取れました。

今回の場合は、規模も小さいので工期も短くて済むと思います。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

仮にデザインを変更するとなったときにも、じゃあそれをどういうコンセプト、先ほど田原さんの意見も1つのご提言ですが、やはり地域の皆様ですとか、それぞれ広く意見を聴いた上で、その方向性を定めてというふうなことを、そういう作業がないと、また市役所が勝手に独りよがりで考えたようなデザインになってしまいますので、その辺に関しましては、10月から着手ということを考えますと、これからそのような手続を踏んでいくというのは、私は厳しいのではないかなというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

この先ずっと若い方や観光客の方に訪れてもらえるデザインにするか否かという、今その判断のときなんですよね。役所の考え方はよく分かりました。

次に、もう一つの提案のアニメの活用ですが、以前、建設課へ伺って、新駅にはこういった要素を取り込んで高校生にアピールしましょうと。押上ヒスイ海岸のポスターも、こういったラブライブのようなマガジンの写真が参考になるので検討してはいかがかと提案しました。ご検討いただけましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

数年前に、平成30年の頃でしょうか、フォッサマグナミュージアムで宝石の国展というものが行われまして、非常に多くの方から当市にお越しいただきました。これも宝石を基にしたそういうキャラクターですとか、そこの会場が鉱物展示のミュージアムということで、それがうまく一致した相乗効果ではないかというふうに考えております。

繰り返しになりますけど、駅のデザインもその地域との調和とか関連性というのは必要かと思いますが、確かに全国のアニメファン、アニメが人を呼び寄せる集客力、インパクトというのは、糸魚川市にとっても大変な魅力でございます。えちごトキめき鉄道には、グッズ、トキてつカレーとかいうところに、またラブライブに近いようなキャラクターというのも新しく今検討されてるようですし、糸魚川地域振興局のほうで久比岐自転車道のPRキャラクターというのもありますので、先ほど申しました地元の高校生からのアイデアを頂きたいということも合わせまして、取り組み方というものを探っていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

今のご答弁は、とてもよかったですと思います。若い方へのアピールの手法、アニメがあるよということで、私から少しご紹介させていただきませんが、このラブライブプロジェクトというのがあって、その中の出版事業が、このマガジンです。私3冊続けて購入して、じっくり見ました。60歳も過ぎた私がこれを買うには相当勇気が要りましたが、見ればなるほどと思うことがあります。

これはラブライブのキャラクター、スクールアイドルが地元が静岡県沼津市ということで、その観光情報が、この中にたくさん出てるんですね。

一方で、沼津市の観光ポータルサイトのトップには、ラブライブのアニメがどんと出ています。見事なタイアップです。この効果について、沼津市産業振興部、観光戦略課に電話して問い合わせたところ、観光効果は明らかにある、若い人が大勢来ているとのことでした。

今の時代は、こういう情報発信なんですよ。押上駅もアニメ活用で全国のアニメファンがやってくる駅にしてまいりましょう。そこを確認させていただきたいと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

その本の中に、風景の中にアニメのキャラクターが普通に溶け込んで、写真とアニメというところが合体したようなその作品というのが何枚も入るとは思いますが、そこは田原市議員ではないですが、50の過ぎた私でもいいなと思えるような景色でございます。先ほども申しましたが、アニメというものを排除するつもりもございませんし、その辺もまたキャラクターの設定というところにラブライブという今具体的な提案も頂きましたが、先ほど私申しました、答弁させていただきましてえちごトキめき鉄道のキャラクターですとか、久比岐自転車道のキャラクターですとか、この辺にもその辺の材料といいますかその辺がございまして、若い人たちの声を聞きながら、その辺どういう対策、対応、取り込み方ができるのかということについては、これからになるんですが、検討を加えていかなきゃいけない仕事の一つだというふうに私は考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

新駅についていろいろと提案をしましたが、そもそもの話として、なぜ駅を造るのかといえば、えちごトキめき鉄道の利用者を増やすことです。

半年前の私の一般質問で、市長は鉄道駅利用促進には、マイレール意識の醸成が重要、新駅を身近に感じてもらう取組が必要と答弁しました。今日の私の提案を実施していただければ、様々なメディアに取り上げられ、駅の価値を高め、そのことが住民や利用者のマイレール意識を高めていきます。市長いかがですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

注目度をどのように高めるかということも非常に大切であります。

しかし、やはり基本的には持続を考えていくと、地元の方々とやっぱり連携をしっかりと取っていかなくちゃいけないと思っております。話題性、いろいろ我々も見とるんですが、ヒットしたところはあるかもしれませんが、やはり持続というところを考えると、やはり我々といたしましては歴史的なこの建造物であったり、また、いろいろやはりこういう地域に残っていくというものでなくてはいけないというのを考えております。そういう中で、限られた財源の中で対応しなくてはならないわけでございますので、そういったところを考えながら取り組んでまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

では、この後は地域との連携について質問してまいります。

先日の糸魚川タイムスに、仮称押上新駅開業イベントに向け、関係者3者集い初会合とあります。新駅は、来年3月13日に開業。関係者3者というのは、押上新駅設置対策委員会、えちごトキめき鉄道、糸魚川市建設課とのことですが、何が話し合われ、何が決まったのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

3月13日というのは、あの会議の中で出てきた数字で、まだ開業日というのは決定しているわけではございません。その3者の中で話し合われたのは、3月のXデーに向けて地域でやる部分ですとか行政でやる部分、鉄道会社でやる部分のこういう方向で進めたいよねというキックオフ的な打合せをやったという状況でございます。今月末のほうにも第2回、その先にも第3回ということで、月に複数回、地元との協議を進めていく予定でございます。先日の打合せにつきましては、そのキックオフ、顔合わせ的なものが強かったのではないかなというふうに、私は報告を聞いております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

不思議なのは、この会合に観光課が出席していないことなんです。産業部長、なぜですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

見辺産業部長。〔産業部長 見辺 太君登壇〕

○産業部長（見辺 太君）

お答えします。

商工観光課が参加してなかったといったことでございますけれども、新駅設置に係るイベントと
いいますか話し合いということで建設課が行ったものだというふうに承知しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

昨年12月議会の私の一般質問で、市長から地元周辺の飲食店や観光施設と連携した地域活性化
の取組が重要、それらを踏まえた受入体制整備が必要とお答えいただきました。

この半年間、地元周辺の飲食店や観光施設と何か協議し、何か形になりましたか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

地元新駅対策委員会の皆様と意見交換等を定期的に行わせていただいておりますが、建設課のレ
ベルでは、まだ近くの飲食店ですとか観光施設というところの協議というところまでは、まだ踏み
込めていけない、いけない実情でございます。

ただ一方、地元の皆様は、地区の強靱化計画ですとかツアーガイドマップの策定など、それら独
自の活動をされておまして、まちづくりの方向性ですとか、おもてなしの体制、あと新駅開業に
向けての機運醸成等、その地域づくりの下地というのは大分進んでいる状況でございます。私ども
けつをたたかれている状況でございます。

そんな中、今月の3日、対策委員会のメンバーの皆様と市長の懇談会がありまして、市長のほう
では、まちづくりにおいては、行政は陰のような物というような表現をしておりました。これは主
役である地元から行政は離れることなく常に寄り添っていくんだぞというふうに私は解釈しており
ますけど、今後も地域の皆様方と開業イベントだけではなくて、地域づくりということに関して継
続的に意見交換を行いながら、その強靱化計画、ツアーガイドマップに描かれてるところが1つで
も2つでも実現できるように、対話とか汗をかいていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

補足して答弁させていただきます。

当課におきましても、まだ周辺の飲食店等と協議はまだ行っておりませんが、地域からの要望を受けまして、新駅から押上海岸への誘導看板等の設置を検討しているところでございます。誘導方法によりましては、地域の方が望まない物にもなりかねませんので、今後、関係する皆さんと協議を重ねまして、皆さんから喜んでもらえるように持っていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

毎回ご答弁いただいているんですよ。半年前、建設課長は鉄道利用者増には、地域の利便性、観光資源などのポテンシャルを生かす取組が必要だ。地域の皆様の頑張りとは行政の頑張りとうまく掛け合わせていくことが必要だ。押上の将来のためのまちづくりに市がどのように関わり、支援できるのか話し合いを続けたい。市は、駅開業に必要な部分を先行して整備するが、海や地域を使った誘客の取組を考えていく場合に、それは建設課なのかどこなのか、整理をして、これまで進めてきたと答弁しました。

昨年6月の一般質問で、観光課長は、海岸線を生かしたサイクリングコースや鉄道観光に活用したい。ひすいほか様々な石を拾うことができる当地域の特徴の発信が必要だ。旅行商品として検討・提案してまいりたいと答弁しました。いずれも立派な答弁ですが、何か形になりましたか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

今の地元との協議の中で、対話の中で新駅開業に付随して何かでも、令和3年にこれをやりますといった具体的などころいうところは、まだ決まっておりません。

ただ、先ほども、似たような答弁になってしまいますが、押上地区の皆様のプランというのは、かなり先行しておりますので、そこの辺に関しましては、ぜひ市役所も一緒になってやらせていただきたいという、そういうスタンスは変わっておりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

押上地区は、海岸を持っている地域でございますので、その中で自転車を活用したものとしたしましては、糸魚川駅から時間に応じたレンタサイクルのモデルコースの作成ですとか、あと久比岐自転車道の魅力アップ推進委員会におきまして、糸魚川駅から久比岐自転車道への誘導ですとか、その沿道での寄り道による地域の消費喚起ですとか、今検討しながら、現地視察を行いながら検討を行っているところであります。

また、鉄道の活用といたしましては、えちごトキめき鉄道と連携して、ひすい探し体験等について商品化に向けて取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

半年前とか1年前、私は、HAKUBA VALLEYとヒスイ海岸をつなぐ観光についても質問しました。建設課長は、糸魚川ならではの食の提供、長く滞在していただける工夫、魅力を知っていただく取組を進めたい。鉄道の安全性や移動の楽しさをアピールし、利用促進とか思い出づくりの一端を担う取組につなげたいと答弁。

観光課長は、海岸での石拾いは、当市ならではの魅力的な体験だ。HAKUBA VALLEYの連携については大変重要と考えていると答弁。

さて、着地型の旅行商品はできましたか。白馬や小谷に押上海岸のポスターでも貼ってきましたか。1年で皆さんがやった仕事って一体何なんです。答弁だけしておけばいいというものじゃないと思いますよ。地域と連携した受入体制はできたんでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

HAKUBA VALLEYの連携と。これに関しましては、私の以前の答弁で、大町、白馬、小谷の皆様方は海というものに対して私たち以上に強い思いを持っておられます。そういう中で、これに関しましては、大糸線の活性化協議会という組織がございまして、その中で昨年秋に、大糸線を使って糸魚川の海岸に石を拾いにくるというようなツアーを計画いたしまして、募集等をいたしました。

ただ、あいにく当日、悪天候で実現ができなかったんですが、そういうHAKUBA VALLEYの皆さん、大糸線を通じたHAKUBA VALLEYの皆様との連携というのは、大糸線の活性化のためにも必要なことでございますし、糸魚川の押上のそういう活性化のためにも必要なことでございますので、その辺に関しましては、押上駅の新駅開業ということも横目ににらみながら着実に進めていくと、その考え方は変わっておりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

補足させていただきますが、やはり新駅設置には、かなりの課題等もたくさんあったわけでありまして。そして、この押上新駅が認可された大きな要因は、私は地元の方々の押上区を中心とする皆様方の、また糸高も含めての熱意がやはり設置に至ったものだと思っております。その中で特に押

上地区の皆様方は、地域をやはり自分たちを駅によってどう変えていくかというようなのをベースに置きながら、先ほど課長が申しあげましたように押上区の強靱化構想、また、押上ツアーガイドマップというような、今各地域が取り組んでおります計画をつくり上げたわけであり、でありますから、我々といたしましては、この強靱化構想やガイドマップをやはりしっかりと支えながら、また連携をしながら、そしてその方向性につなげていかななくてはいけないわけであり、ありますから、地元の方々と連携しながら、そして地元の方々をやはりこの目標に導いていくような方向性もやはり連携取っていきたいと思っております。でありますから、市がいろいろ考え方やいろんなアイデア、いろいろな思いがあるかもしれませんが、そういった地域の構想をやはりしっかりとつなげていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

今、市長がおっしゃったとおり、地元押上区の対応は最高なんですよ。これ以上ないくらいの対応があるんじゃないですか。理解して応援して、計画つくってやりましょうと言ってくれてるんですよ。問題は、行政側の動きなんです。これが弱いし遅い。私はそのことを申しあげて、今日はこれを一番の課題とさせていただいてるんで、もう少し質問を続けたいと思います。

産業部長、あなたの部下は、市長の言ったように仕事をしてると思いますか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

見辺産業部長。〔産業部長 見辺 太君登壇〕

○産業部長（見辺 太君）

お答えします。

確かに今いろいろと事業を進める中で、どういった形のコンセプトで押上駅を盛り上げていくかといったところについては、なかなか今見えづらい状況になっているのかなと思っております。

ただ、今、建設課を中心に、新駅設置につきましては、一丸となって進めておるところでございます。先日、地元の皆さんが市長のところへご挨拶に見えられたときにも、建設課の職員は本当に一生懸命やってくれてると、地元の皆さんからお褒めの言葉を頂いたところでございます。非常に建設課の職員もうれしがっているといたしますか感謝しておりましたし、今後もなるべくいろんな面で皆さんに見えるような形で仕事をなるべく早く進めるようにしていけるように、私のほうからも指導していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

地元の方は、役所への遠慮もありますね。

半年前に産業部長は、地区の皆さんと一緒に連携して進めることが第一義だと。役割を明確にし、

連携しながらしっかりと進めることが肝要だと答弁しました。

遡ること3年、2016年12月議会、当時の建設課長は、押上駅はヒスイ海岸に近い、300メートルもない近い駅となる。新駅については、地域づくりとかまちづくりを踏まえた駅づくりというのを考えている。押上駅においては、海岸というものを見据えてのまちづくり、地域づくりが必要だ。今後とも地域の皆さんと話をしながら、どういった活用ができるのか、どういったコンセプトで、どういった形で使っていけるのかを検討してまいりまいたと答弁しましたが、そのことを部長は覚えていらっしゃいますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

見辺産業部長。〔産業部長 見辺 太君登壇〕

○産業部長（見辺 太君）

お答えします。

ひすいに特化したといいますかひすいをモチーフにいろいろ考え、あるいは海岸を利用できる駅として、駅をいろいろ検討してくといったことについて、その当時お話ししたことはあるかと思っております。今でもそう思っております。

押上地区においては、議員が今おっしゃった、例えばアニメとか伝統とかいろいろあるかもしれませんが、やはり日本に有数のヒスイ海岸であるといったことが大きなポイントであるというふうには思っております。その海をしっかりと意識した中で、どういった形で駅を盛り立てていくか、また、地域を盛り立てていくことができるかといったことが必要でないかなというふうには思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

それはあれですか、ひすいを生かすからアニメはやらないでいいという考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

見辺産業部長。〔産業部長 見辺 太君登壇〕

○産業部長（見辺 太君）

お答えします。

アニメはやらないということではなくて、その手法の中にアニメが入ったことにより、若い人たちが何といいますか取っつきやすいといいますか、親しみやすい形になれば、それはそれであるかなと思っております。

ただ、いろんな世代の方がいろんな考えを持って駅に集まるとしますので、アニメだけが全てかというももっといろんなパターンで考える必要があるかなというふうには思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

しかし、いつもこの結論の出ないやり取りばかりですよね。これが議会でしょうか、政治でしょうか。

3年前に示された市の方針は、地元との方向性は一致しており、何ら問題はありません。問題があるとすれば、なすべきことも重要なことも分かっている行政のペースでしかまちづくりが進まないということじゃないでしょうか。駅建設に合わせた情報発信やまちづくり、この半年で遅れを取り戻していただきたいと思います。部長、その点はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

見辺産業部長。〔産業部長 見辺 太君登壇〕

○産業部長（見辺 太君）

お答えします。

新駅開業に向けて、しっかりと進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

地域と連携した観光受入体制は、この先にもありますが、まずは駅をインスタ映えするすてきなデザインにして、記憶に残るカッコいい駅にして、それがメディアに取り上げられ、市のPRに役立つものにすることです。そのチャンス、タイミングは今です。新駅開業という一大事業です。地元の皆さん、子供たち、高校生、観光客、多くの皆さんが駅に来てくれるようになればと思います。よろしく願い申し上げます。

では、コロナウイルス対策の2回目の質問です。

新型コロナウイルス、この感染への不安を訴える市民からの手紙をご紹介します。5月25日に頂戴したものです。

全国に出されていた緊急事態宣言の解除のニュースを聞いて、逆に不安が増えています。この先、経済活動の再開、活発化を目指し、一気に外から人が来るのではと思い心配です。糸魚川では、今のところ感染者は出ていませんが、コロナの前から糸魚川の医療の脆弱性が問題になっていたのに、これでコロナ感染者が出たら、一気に医療崩壊をしてしまいます。地域に暮らす者としてこれ以上の不安はありません。

私は、昨年、がんの手術をしました。放射線治療をし、今は薬の服用を続けています。感染に対する不安は、人一倍です。家族は運転手をしていて、感染リスクの高い仕事です。ですので、予防にもかなり気を使っています。

しかし、この先、観光等で外から人が来る。また、夏山観光の時期に蓮華温泉の路線も始まるのではといううわさを聞き、あまりの危機意識の低さに愕然としています。富士山でさえ、この夏はやめているのにです。自分には持病がないから、糸魚川は感染者が出ていないからという意識で観

光・経済に走っていくのは、あまりにも無防備じゃないでしょうか。地域の人々にも意識の大きな違いがあるのを感じています。

医療体制に不安のある当地域では、感染リスクをできるだけ小さくしていく。そのことこそ、今行政がしっかりと取り組んでいってほしいことです。それぞれの事業所の感染対策は、きちんとできているのか、行政としてのチェックはできているのかなどなど。市としてのマスクの配布や支援金のことは、確かにありがたいことです。だからこそ、ここは本当に慎重に、急がずに、念には念を入れて進んでいってほしいのです。まずは、医療体制をきちんとさせていくこと。これはすぐにはできないことではないので、だからこそ、リスクを避けるための最大限の努力が必要です。

私のように病気をして大きな不安を抱えている市民がいること、仕事をしている家族も不安に思っていることを少しでも知っていただきたく、お手紙させていただきました。

長い雨も必ず上がる。夜は必ず朝になる。この言葉を信じて、日々過ごしていきたいと思います。

市長、今の市民からの訴えを聞いて、何かお考えになったことがあれば伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

全く私もそのとおりで思っております。しかしながら、ご承知のとおり、この地域医療の問題は一朝一夕にできるものではございません。そういう中で、我々が今糸魚川で取り組んできたこの体制は、やはり堅持していきたいと思っております。

しかし、人口減少、また、医師不足、看護師不足の中においては、非常に厳しいところがあるわけでありまして。そういう中で新型コロナウイルス感染症については、非常に危機的な状態ではあるわけでありまして、しかし、県、保健所、そして我々の公的な病院を運営していただいております厚生連糸魚川総合病院、非常に皆さん本当に頑張っていただいております。それに関しては、感謝をしながらそれをどのようにしていくか、今この第2、第3の感染症の波が来る前にいろんな体制を整えていかななくてはいけないということを考えてる次第であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

市長の気持ちは、市民に届いたと思います。ありがとうございました。

手紙のとおり、市民の中にある感染に対する意識の大きな違いへの対応と医療体制に不安のある当地域での感染リスクをできるだけ小さくしていく対応、この2つに行政がしっかりと取り組んでほしいと私も思います。この点を改めて担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今後におきましては、新しい生活様式の実践、定着による感染防止と、先ほど市長がお話ししましたように第2波に備えた医療検査体制の拡充が必要であるというふうに認識しております。保健所や医師会などと連携しまして、市民の皆さんが不安を抱かないよう必要な情報提供でありますとか医療体制の整備に努めてまいります。

また、今年度の地域医療フォーラムでは、新型コロナウイルスとの共生でありますとか、医療現場の現状をテーマにしまして、新しい生活様式の定着、地域医療の現状認識の向上、こういうことを図る取組の一環にしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

有名人が急に重症化して亡くなったことが報道されたこともあり、がん治療をしている方の感染に対する不安は人一倍です。また、高血圧や糖尿病や脂質異常症などの生活習慣病を患っていたり、循環器系の疾患があることが、重症化すると報道もあります。そのようなことで、コロナ感染して重症化することを恐れている市民は、多数おられると思います。その不安解消への対応の相談や市民への情報提供などに努めていますか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今後におきましても、決して気を緩めることなく基本となる市民一人一人の意識に基づいた感染予防の取組を周知・啓発していきたいというふうに考えております。

また、医療体制としましては、救急、がん、人工透析、お産など、なくてはならない医療を守りながらコロナ感染症の対応に努めているところであります。市民から寄せられる相談に対しましては、一人一人の状況に応じながら丁寧な対応を図るように努めてまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

仮に感染して重症化した場合には、どういった流れになりますか。糸魚川総合病院は、感染症の指定病院になっていません。もし上越の重症患者受入れがあふれてしまった場合はどうなりますか。糸魚川総合病院で受入れできますか。国の補正予算による医療提供体制整備拡充のタイミングでやっておくべき病棟の改修工事や設備や備品の調達などがあるのではないですか。3点伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

県が中心となって患者の受入体制の調整をしております。感染者は、まず上越市の感染症指定病

院に入院をしていただきます。感染者が増えた場合には、重症患者は上越市の感染症指定病院、比較的軽症な方は、その他の病院に入院していただくなど、症状の度合いに応じながら振り分けが行われるものというふうに認識しております。細かな詳細については、なかなか説明できませんけども、糸魚川総合病院では、重症患者の受入れは行わず、軽症患者の受入れが中心となるものと想定をされており、必要な準備につきましては、今後とも引き続き支援をしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

例えば市内で透析を受けている方が感染して、重症化した場合はどうなりますか。上越へ行けない事情を抱えた方への対応はどうなりますか。その心配への対応をしてほしいんですよ。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

基本、基礎的な疾患を持っており、今ほどありました透析を行っておる患者さんについては、重症化の心配があります。そういう方については、あらかじめ県立中央病院のほうへ入院をしていただくような段取りになるというふうに考えております。

それからもう一点、なかなかそちらのほうへ行けない方、こういう方につきましては、必要に応じて救急車による搬送ということも想定をして、準備をしておるところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

いろんなケースを想定して、市民の不安解消に努めていただきたいんですよね。先ほど医療フォーラムの話もありました。ぜひそういったところをやっていただきたいと思います。

それでは、医師、看護師、医療スタッフの感染予防強化と安全確保策について改めて伺いたいと思います。

市も対策を考えていただいていると思いますが、まず何が課題となっているか、その解決のための予算措置ができるのか、何をターゲットに支援をしていくのか確認できていますか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

病院でありますとか医療機関では、厳重な感染防止策を講じていただいております。市ができる支援策としましては、医療資材の調達の協力でありますとか医療スタッフの宿泊施設の確保、また、検査センター設置への協力などがあります。これらにつきましては、予算措置も含めながら必要な支援に今後とも努めてまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

糸魚川総合病院からは、何か求められてはいないのでしょうか。感染予防物品調達の支援は、必須です。今までより費用がかかっているのです、その資金支援が必要です。その対応について伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

病院におきましては、各種物品の調達が困難な状況もありますことから、これまでも随時相談をしながら対応してきたところであります。糸魚川総合病院につきましては、地域唯一の基幹病院であります。これらの体制充実が、市民の安心感でありますとか地域医療の確保につながるということを認識しておりますことから、今後もあらゆる支援をしてまいりまいたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

報道にもあるとおり、コロナ対応で医師、看護師への負担が大変大きく、特に糸魚川の場合は、慢性的に看護師が不足しており、負担が増すと看護師の離職が増えることが懸念されます。辞めないうための費用支援が現実問題としては大きいと思います。その対応について伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

仮に糸魚川で感染者が発生すれば、医療従事者は家庭などの事情から勤務できない場合や、不安による離職など、これらについても現実的には考えられます。現在、県と協力しまして医療従事者の宿泊施設を確保することで従事しやすい環境整備に努めており、また、国の補正予算で医療従事者には、感染リスクに応じた慰労金が予定されており、市内のコロナ感染症に協力する医療機関の従事者にも配分されるものと考えております。こういうことが医療従事者のモチベーションの維持につながるものというふうに期待しておるところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

厚生連も糸魚川総合病院も経営は楽でないと思います。コロナ対策の病床確保や救急外来などの制限などをすれば、経営への影響も大きいはずです。その点については、問題なく進んでいますか。コロナの影響がきっかけで糸魚川総合病院の医師、看護師不足が進み、診療科の縮小が進み、やがて、糸魚川の医療崩壊となってしまうことを私は心配します。これはあってはならないことですが、起こり得ます。改めて市の対応について伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

県が行った病院の影響調査によりますと、入院や外来の患者の減少により、約75%の医療機関の経営に影響が出ており、厚生連や糸魚川総合病院についても同様だというふうに考えられます。国の補正予算におきましては、医療体制確保のための予算計上が予定されており、市としましてもこれらの情報収集に努めながら、できる支援は速やかに実施をし、また、国・県に対しては、地域医療の確保に必要な支援を要望していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

先ほど医療フォーラムの話もありました。そういった市の対応は必要なことですし、また、ありがたいことと思います。

今日、様々な課題を出ささせていただきましたが、今後も市民が安心できる医療体制の確保について取り組んでいただきたい。

最後に、米田市長のお考えを伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

新型コロナウイルス感染症につきましては、幸いなことに市民の協力、また、その医療機関、そして医師会、糸魚川総合病院のお力によりまして発症してないわけでありまして、本当に感謝いたしておる次第であります。

そういう中で、今言ったように非常に以前からも課題のある地域医療が非常に厳しい中において感染症が発生したということで、さらにそういった課題に対しては積極的に、また、以前より増して重く受け止めていかななくてはいけないだろうと思つる次第であります。そういう中で、市民

の皆様方のご協力いただきながら、これからも対応していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

よろしく願いいたします。

では、復興まちづくり計画、糸魚川の文化を感じる雁木の町並みについての2回目の質問です。

現状を見れば、再建された雁木は、ぶつぶつと切れています。雁木は連なってこそ雁木ですから、町並みのイメージとしてはいま一つです。

そうはいっても、被災された方にすれば元の場所に家を建てる。あるいはお店を再建することで手いっぱい。雁木を造りたくても造れない、それぞれの事情もあると思います。担当課は、雁木を造らない理由をちゃんと把握していますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

雁木につきましては、大火直後から本町通り商店街ですとか商工会議所、市の3者で勉強会や検討会を行いまして、沿線の皆様には再建を呼びかけてきております。再建されていない方につきましては、それぞれ事情は異なりますが、まだ迷っていらっしゃる方につきましては、引き続き再建に向けて支援をしてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

土地を売りたい方にすれば、雁木はないほうがよいし、キターレのように建物と離れた雁木をわざわざ造ることはないとお考えの方もいるかもしれません。そういった中で雁木を造ってくださる方は、本当にありがたいです。

ありがたいといえば、平成5年の雁木事業が国に認められて、補助金を頂いたことに感謝して、ありがたや商店街と名づけたり、本町八福神を祭った経緯はご存じでしょうか。市からはどういう経緯で補助することになったか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

本町通り商店街の雁木につきましては、平成5年度に雁木修景事業として本町通り商店街振興組合が設置した木製アーケードであるというふうにお聞きしております。各店舗が所有する通行部分につきましては、商店街組合に無償で貸与して、建築費用の一部も負担されておるということで、当時は耐火性の問題からアーケードとみなされずに国県の補助対象外ということでありましたが、雪

国文化の雁木の必要性を粘り強く訴えて、全国初の補助対象になったというふうにお聞きしております。これらの取組に対して市も支援をして、一体となってこの商店街を盛り上げるために補助をしたというふうと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

当時の商店街の役員さんの大変なご苦勞があつて通りの皆さんの気持ちを動かし、県や国を動かし、補助金が出ることになって、市も支援したと思います。中には、雁木は造れないが、床の石張りはやりますと申して参加した方もおられて、皆さんがまちづくりに協力しようと心を寄せ合い、金を出しました。なので、今回も床の石張りだけでもやりませんかと働きかければ、参加していただけるのではないのでしょうか。市がコーディネートした雁木のデザインはばらばらですが、せめて雁木の床部分だけでも統一されるように市からお願いしていただけないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

雁木の再建に当たりまして、床の部分につきましては、歩行者の通行空間として確保いただいておりますので、今後、床の整備に対する補助金も設けまして、協力をお願いしていく予定にしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

造った雁木をどう生かすのか、その辺り計画をつくった糸魚川市、建設主体の本町通り商店街さん、通りの中心になる駅北広場キターレ運営者とで話し合つて、雁木を生かす方針、目的、役割分担を明確にしておくべきではないかと思つています。

以上で、質問を終わります。

○議長（中村 実君）

以上で、田原議員の質問が終わりました。

11時25分まで暫時休憩といたします。

〈午前11時15分 休憩〉

〈午前11時25分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き、会議を再開いたします。